

**イベント開催を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、
大和町の人口減少を緩やかにしよう
～今後、私は、大和町とどのように関わっていけば良いのか？～**

本単元での情報活用能力の具体

【整理・分析】手法7：コンセプトマップを用いて整理・分析する

1 日 時 令和7年9月30日(火) 5校時 13:30～14:25

2 場 所 1年A組教室

3 学年・学級 1年A組・WA組・WB組 33名(男子15名 女子18名)

4 単元設定の理由

(1) 単元観

第1学年の探究テーマは「地域創生」である。本単元は、大和町が抱える人口減少という問題解決を目指した単元である。この単元において、実生活や実社会の課題を解決し、社会に還元している姿は、大和町民の生活をこれ以上不便にさせないために、大和町に人を誘致し活性化させるためのイベントを自分の好きなこと・得意なことを生かして実行している姿である。

この単元の本質的な問いは、「今後、私は、大和町とどのように関わっていけば良いのか？」である。また、この問いを生徒と共に考えるために、単元を貫く問いを「大和町の人口減少を緩やかにするために、私達はどうかすればよいのか？」と設定した。

(2) 生徒観

生徒は小学校の総合的な学習の時間で、大和町を題材とした課題解決に取り組んできた。これまでの学習を振り返り、探究的に学習を進めることに関して33名の生徒にアンケートを実施したところ、以下のような結果となった。

| 質問 | 肯定的回答率 |
|---|------------|
| 総合的な学習の時間の授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 | 81.8%(27名) |
| 総合的な学習の時間の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 | 42.4%(14名) |
| 総合的な学習の時間の授業では、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 | 57.6%(19名) |
| 総合的な学習の時間の授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。 | 90.9%(30名) |

この結果を踏まえ、生徒の現状を次のように考察した。

1点目、約9割の生徒が、友達や周りの人と協力しながら課題の解決に取り組んでいると感じているが、これまでの問題解決では、自分から取り組むことができていた生徒は4割程度に止まっている。この原因として、学習形態が学年単位の取組になっており、全員一律の課題設定となっていたことで自分事として取り組めていなかったことが考えられる。

2点目、約8割の生徒が総合的な学習の時間の授業が自分に合ったものになっていたと考えているが、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができた生徒は6割未満に止まった。この原因として、課題解決のための協力者や情報源を教師から提示することが多かったため、解決する課題に対する困り感に直面する場面が少なくなっており、学び方で試行錯誤することの必要性が生じ

なかったと考えられる。

(3) 指導観

この単元の中で、探究が自律的に行われるようにするために、次の3点に留意する。

1点目は、地域の問題を取り上げ、「社会参画」の考えを醸成することである。1学年では、小学校での地域の学習を生かし、探究テーマを「地域創生」とし、大和町が抱える人口減少の解決に向けたプロジェクト型学習を実施する。地域の事業所や住民に協力を依頼したり、助言を受けたりすることで、地域社会に関わる喜びなどを実感させ、大和町との今後の関わり方について考えさせる。

2点目は、好きなこと・得意なことを生かしたグループ活動を取り入れ、「自己課題」に向き合わせることである。自分事として取り組めていなかった生徒がいることを踏まえ、2サイクル目以降の活動では、自分にとって関りが深い課題に取り組めるようにするために、自分の好きなこと・得意なことを生かせる企画を選択させ、グループごとに企画の準備を進める。

3点目は、学習活動の形態を小さくし、一人一人の「運用」の力を高めることである。分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていない生徒がいることを踏まえ、1・2サイクル目の課題の設定場面では、学年全体で課題を見つけ、計画を立てる。そして、3サイクル目の課題の設定場面では、プレイベントから本番に向けて改善点を修正するために、企画のグループごとに課題を見つけ、計画を立てる。その際、これまでの探究の過程を振り返り、本番に向けた見通しを持ちつつ自分たちの力で課題を解決できるように、探究の過程をワークシートやスライドに残すだけでなく、他のグループの取組を参照できるように共有ドライブの活用についても、1サイクル目から指導する。

5 単元の目標

○人口減少が進む地域を活性化させるイベント実施を通して、大和町の魅力を町外へ発信するためには大和町内外の方の協力が必要であることを理解し、イベントに参加する人のニーズと大和町の魅力及び効果的な発信方法を考えるとともに、これからの大和町との関わり方を考えながら生活できるようにする。

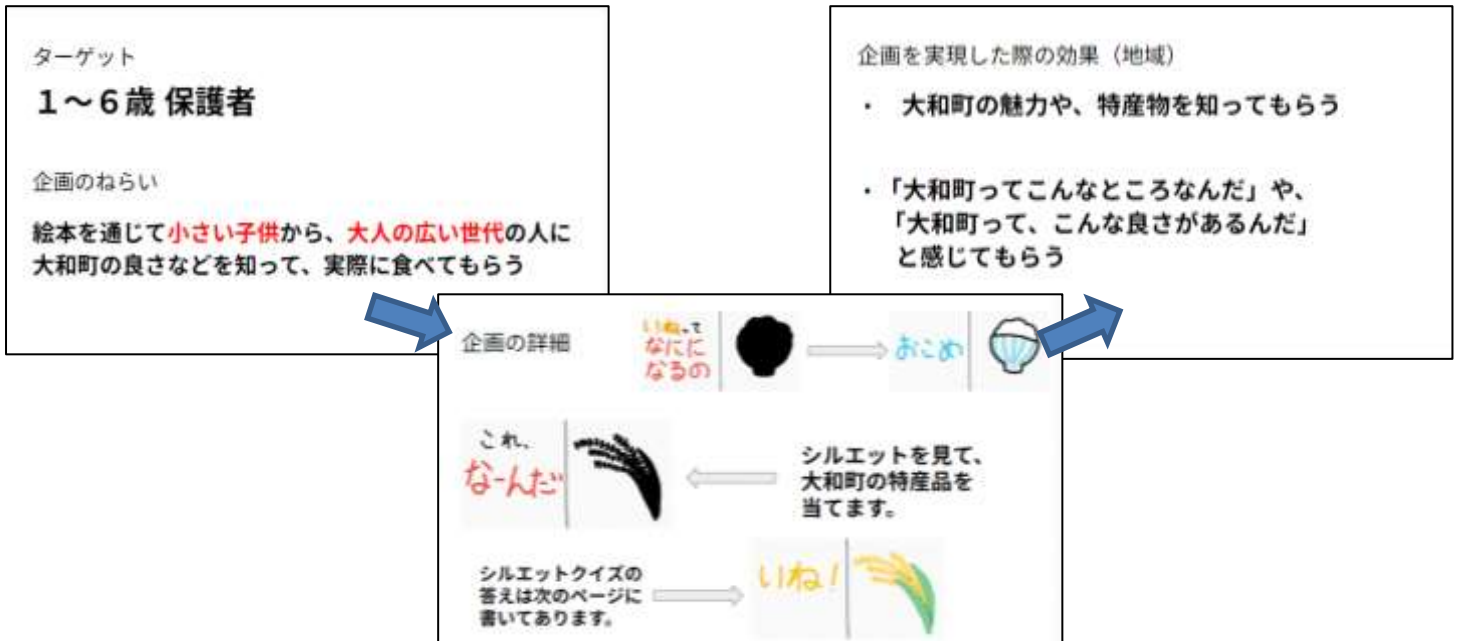
6 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <p>【①知識】 大和町の発展のためには、地域の方々との協力が必要であることを理解している。</p> <p>【②技能】 大和町への誘致を目的とした企画をターゲットに応じた適切さで実施している。</p> <p>【③探究的な学習のよさの理解】 大和町の問題を解決する学習が、大和町の発展のみならず、自らの生き方に関わっていることに気づいている。</p> | <p>【④課題の設定】 大和町の問題を解決する上で、自分たちで解決できそうな課題を選択し、設定している。</p> <p>【⑤情報の収集】 企画のさらなる充実と実現のために必要な情報を効率的に収集する方法を選択している。</p> <p>【⑥整理・分析】 「大和町の魅力」と「児童館と児童館の利用者にメリットがあること」を関連付けて企画を考えている。</p> <p>【⑦まとめ・表現】 コンペティションを目的に、イベントの企画案を効果的に表現している。</p> | <p>【⑧-1 自己理解】 これまでの取組を振り返り、自分の好きなこと・得意なことを理解しようとしている。</p> <p>【⑧-2 他者理解】 企画内容について異なる意見や他者の考えを聞き入れようとしている。</p> <p>【⑨主体性・協働性】 自分の意志で大和町の問題解決に向けて取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力してイベント準備に取り組もうとしている。</p> <p>【⑩将来展望・社会参画】 大和町との関わりの中で自己の生き方を考え、将来地元のために自分のできることを見つけようとしている。</p> |

7 本単元での情報活用能力の具体

イベント実施場所の候補地として上がっていた児童館の協力を得るために、児童館の人が「協力したい」と思えるような企画案をプレゼンする。その情報の収集の過程で児童館の利用者は乳幼児と保護者の利用が最も多いことや絵本の読み聞かせ企画の人気が高いことが分かった。その情報と様々な特産品があるという「大和町の魅力」を関連付けて、以下の企画案を「まとめ・表現」の学習過程でプレゼンした。

(生徒作成スライド一部抜粋)



8 指導と評価の計画 (全 40 時間) 本時 23/40

| 次 | 時 | 学習内容 | 生徒の思考の流れ | 観点 | | | 単元の評価規準 (評価方法) |
|---|----|---|--|----|---|---|-------------------|
| | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一 | 1 | 本時の目標：地域の魅力や抱えている問題を理解し、今後取り組むべきことを考えよう。 | | | | | |
| | ～6 | <p>○これまでの生活を振り返り、大和町の魅力を考える。</p> <p>○複数の資料から、大和町の抱える問題を読み取る。</p> <p>○三原市が人口減少を食い止めるためにどのような取組を実施しているか、市役所の方の講話を聞く。</p> <p>○大和町の人口減少を緩やかにするために自分たちにはどのような取組が</p> | <p>・大和町は豊かな自然に恵まれていて、落ち着いて生活できるところが魅力だな。</p> <p>・大和町は交通手段が減少しており、その原因は人口減少にあるようだ。</p> <p>・このままでは、大和町での生活はもっと不便になってしまう。</p> <p>・三原市の取組が分かった。自分たちが大和町のためにできることはなんだろう？</p> <p>・大和町に入ってくる人が増えるような、町の魅力を発信するイベントを開催しよ</p> | | | | ④ |

| | | | | | | |
|----|---|--|--|--|---|--|
| | <p>できるか考える。</p> <p>○イベントのターゲットを設定する。</p> <p>○大和町の魅力を伝える取組を考える。</p> | <p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和町の自然の豊かさを魅力に感じ、複数人で移住してくれる子育て世帯をターゲットにしよう。 ・三原駅の近くだとたくさんの方が集まりそうだな。 ・大和町の豊かな自然を知ってもらえる企画にしたいな。でも、自分たちの力だけでイベントを開催するのは難しいから、協力してくれそうな人を調べてお願いをしよう。 | | | | <p>している。【④課題の設定】(ワークシート)</p> |
| 7 | 本時の目標：協力者候補の児童館が協力したくなる企画を考えるために、情報を収集しよう。 | | | | | |
| 8 | <p>○児童館の利用者の年齢層や人気のある企画についてインターネットやいただいた資料から情報を収集する。</p> <p>○ターゲット層が好みそうな企画についてインターネットで情報を収集する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童館は幼児連れの家族が土日に訪れることが多いとわかった。 ・特産品を試食する企画や農業体験をしている市のイベントが参考になったな。 | | | | |
| 9 | 本時の目標：収集した情報を基に、児童館の利用者に喜ばれ、大和町の魅力が伝わる企画を考えよう。 | | | | | |
| 10 | <p>○大和町の魅力が伝わり、児童館の利用者に適した企画を考えるために収集した情報を整理・分析する。</p> <p>○企画の概要、大和町と児童館及びその利用者双方にとってのメリットをプレゼンできるよう準備する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が遊ぶ粘土と特産品の米粉を関連付けて、米粉粘土遊びをすれば、地域の特色のPRになるはずだ。 ・観光スポットを紹介する劇をすれば、子供たちにも喜んでもらえるし、後日大和町に足を運んでももらえるはずだ。 | | | ⑥ | <p>「大和町の魅力」と「児童館と児童館の利用者にメリットがあること」を関連付けて企画を考えている。</p> <p>【⑥整理・分析】(ワークシート)</p> |
| 11 | 本時の目標：児童館に協力したい企画を選んでもらうためにプレゼンをしよう。 | | | | | |
| 13 | <p>○児童館の方へのプレゼンを練習する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・企画を実現するために地域の協力をどのように得ていくのかを具体的にまとめている班の発表が参考にな | | | | |

| | | | | | | |
|---|---------|--|--|--|---|---|
| | | <p>○児童館の方へ企画のプレゼンを行う。</p> | <p>ったので真似したいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和町の魅力が伝わるだけでなく児童館の利用者の方にも喜んでいただける企画であることをしっかり伝えよう。 | | ⑦ | <p>コンペティションを目的に、イベントの企画案を効果的に表現している。</p> <p>【⑦まとめ・表現】(プレゼン)</p> |
| 二 | 14 | 本時の目標：児童館の要望を踏まえ、イベントの実施に向けて今後の計画を立てよう。 | | | | |
| | ~ 18 | <p>○児童館で実施する企画を決定する。</p> <p>○児童館の要望と、イベント当日までにやるべきことを整理し、今後の計画を立てる。</p> <p>○イベント企画運営のプロから手順や心構えを学ぶ。</p> <p>○グループに分かれ、リハーサルまでの計画を立てる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童館が協力して下さることと実施する企画が決まったから、次はどのように準備を進めるべきか考えよう。 ・これからいつ何をやるべきか考えることができたけど、自信がないからプロの意見を聞きたいな。 ・協力をお願いしたい地域の方にどのようにアプローチすればよいか分かったから、プレイベントを中間目標に、次はその準備に取りかかろう。 ・この企画では、chromebookを使って、映像を制作するからパソコンが得意な自分の良さを生かせるな。 ・まずは効果的なポスターの作り方を学ぶ必要があるから、専門家の意見を聞けるように準備を進めよう。 | | | |
| | 19 | 本時の目標：企画のさらなる充実や実現のために必要な情報を収集しよう。 | | | | |
| | ~ 20 | <p>○企画のさらなる充実や実現に必要な情報を収集するために適切な手段は何か考え、実行する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・米粉粘土の作り方についてはインターネットで調べることができるけど、具体的な扱い方や注意点については米粉を製造している増田製粉さんに直接聞いてみよう。 ・保育士さんは小さな子供と日常的に関わっているから、どんな方法で興味や関心を引いているか教えてもらいたいな。 | | ⑤ | <p>企画のさらなる充実と実現のために必要な情報を効率的に収集する方法を選択している。</p> <p>【⑤情報の収集】(ワークシート)</p> |

| | | | | | |
|---------------|---|---|--|--|--|
| 21 ～ 29 | <p>本時の目標：収集した情報をもとに、企画の実現に向けて必要なものを準備しよう。</p> <p>○収集した情報をもとに、絵本や紙芝居などを作成したり、ポスターやラジオの原稿を作ったりする。</p> | <p>・紙芝居は大きな絵を見もらえるようにスライドで作成しよう。</p> <p>・米粉粘土は遊んでもらうだけでなく、大和町の特産品であることをPRするチラシも一緒に配ろう。</p> <p>・ラジオではイベントの日時だけでなく、これまでの授業の取組についても紹介できるように簡潔にまとめておこう。</p> | | | <p>⑨ 自分の意志で大和町の問題解決に向けて取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力してイベント準備に取り組もうとしている。</p> <p>【⑨主体性・協働性】(行動観察・R80)</p> |
| 30 ～ 31 | <p>本時の目標：本番を想定してプレイベントを行い、次の課題を見つけよう。</p> <p>○学校の体育館でブースに分かれ、児童館の利用者と同年代の地域の方を対象にプレイベントを行う。</p> <p>○プレイベント参加者にアンケートを実施する。</p> | <p>・地域の方に話を聞きながら観光マップを作ったことで、自分たちだけでは気づけなかった魅力をイベントで伝えることができたな。</p> <p>・地域の方に向けてプレイベントを行ったけど、大和町の魅力を共有しながら一緒に盛り上がるのができたな。</p> <p>・上手いかなかったところがあるから共有して修正したいな。</p> <p>・参加者のリアルな反応を踏まえてイベントをより良いものにしていきたいな。</p> | | | <p>大和町の発展のためには、地域の方々との協力が必要であることを理解している。【①知識】(R80)</p> |
| 32 ～ 33 | <p>目標：プレイベントを踏まえて、今後取り組むべきことを考えよう。</p> <p>○プレイベントの自己反省と参加者のアンケート結果から今後の課題を設定し、取り組むべき課題の優先順位を決める。</p> | <p>・企画自体は楽しんでもらえたが、大和町に行こうとは思ってもらえていないな。</p> <p>・地域の方の協力が必要なことから先に動き始めた方がよさそうだな。</p> | | | <p>⑧ 企画内容について異なる意見や他者の考えを聞き入れようとしている。</p> <p>【⑧-2 他者理解】(R80)</p> |
| 34 ～ 35 | <p>目標：参加者が大和町へ行きたい、住みたいと思える企画になるよう、必要な情報を収集しよう。</p> <p>○書籍や地域の方々から、人を呼び込むために効果的な方法に関する情報を収集する。</p> | <p>・参加者に大和町のお店で使えるクーポン券を配布すれば、劇で紹介した場所を訪れてもらえそうだな。</p> <p>・米粉のレシピを紹介すれ</p> | | | |

| | | | | | | |
|---------|--|---|---|--|--------|--|
| | | ば粘土遊びに興味を持ってくれた人が買いに来てくれるかもしれないな。 | | | | |
| 36 | 目標：収集した情報と児童館で実現可能なことを関連付けて企画を改善しよう。 | | | | | |
| ～ 37 | ○収集した情報と児童館で実現可能なことを関連付けて企画の改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・米粉粘土の紹介は大和町の米粉の生産量だけでなく、レシピも載せて、会話をしながら魅力を伝えよう。 ・当日劇の合間に流す予定だった自分たちの取組を紹介する動画の最後に、大和町に足を運んでもらいたいというメッセージを加え、クーポン券を配布しよう。 | | | | |
| 38 | 目標：これまでの学習を踏まえ、イベントを実施しよう。 | | | | | |
| ～ 39 | <p>○児童館でイベントを実施する。</p> <p>○イベント参加者にアンケートを実施する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・宣伝の効果でたくさんの方が来てくれたな。 ・プレイベントの反省を生かすことができたな。 ・イベントを通してどれくらいの方が大和町に行ってみたいと思ってくれたかな。 | ② | | | 大和町への誘致を目的とした企画をターゲットに応じた適切さで実施している。【②技能】(行動観察) |
| 40 | 目標：活動を振り返り、大和町との関わり方や自身の生き方について考えよう。 | | | | | |
| | ○1年間の取り組みを振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と協力して取り組んできたことで、大和町のことを大切に思う人がたくさんいることに気づけたな。 ・今回の学習を通して、計画的に物事を進めていくことが得意になったな。 ・これからも大和町の活性化のために元気祭りなどでボランティアに協力していきたいな。 | ③ | | ⑧ ⑩ | <p>大和町の問題を解決する学習が、大和町の発展のみならず、自らの生き方に関わっていることに気づいている。【③探究的な学習の良さの理解】(振り返りシート)</p> <p>これまでの取組を振り返り、自分の好きなこと・得意なことを理解しようとしている。【⑧-1自己理解】(振り返りシート)</p> <p>大和町との関わりの中で自己の生き方を考え、将来地元のために自分のできることを見つけようとしている。【⑩将来展望・社会参画】(振り返りシート)</p> |

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 収集した情報をもとに、企画の実現に向けて必要なものを準備することができる。

(2) 本時の評価規準

- 自分の意志で大和町の問題解決に向けて取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力してイベント準備に取り組もうとしている。【⑨主体性・協働性】（行動観察・R80）

(3) 本時の評価基準

| 十分満足できる状況（A） | おおむね満足できる状況（B） | 努力を要する状況（C） |
|---|---|-------------|
| 自分の意志で大和町の問題解決に向けて取り組もうとし、自他の良さを生かしながら、協力してイベント準備に取り組もうとしている。 | 自分の意志で大和町の問題解決に向けて取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力してイベント準備に取り組もうとしている。 | Bを満たしていない。 |

(4) 本時の学習展開

| | 学習活動 | ○指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への指導の手立て | ◇教科の評価規準 （評価方法） |
|---|--|--|--|
| 導入 | ○グループごとに前時の内容を想起し、学習目標を把握する。 | ○自分たちで本時の目標を設定できるように、事前に各グループリーダー同士で進捗状況と計画を共有しておく。 ◆活動中にやるべきことを確認できるように、グループごとの目標や計画、ToDo リストをドライブで共有する。 | |
| 本時のめあて：収集した情報をもとに、企画の実現に向けて必要なものを準備しよう。 | | | |
| 展開 | ○グループごとに企画の実現に向けて準備を進める。 | ○基本的にはグループリーダーの指示で活動を進めていくが、教師は「大和町の魅力を伝える」「児童館の利用者に喜んでもらう」という目的から逸れないように適宜助言する。 ◆グループのToDo リストを一緒に確認しながら、グループのために自分にできることを選択させる。 | |
| まとめ | ○R80 を記入する。 ○R80 をシェアリングする。 R80 の記述例 絵本作りに向けてグループで分担して工夫することができた。例えば、Aさんは見ていると楽しくなるような明るい色で塗り、僕は地域の人の説明を小さい子でも分かる言葉で考えて書いた。 | ○振り返りの視点を示す。 ・自分または他者が本時の目標達成のために何をしたか。 ・進捗状況を振り返ってグループのために次回すべきことは何か。 ◆R80 のひな型を示す。 「グループで～を進める際に、○○の良さを生かすことができた。例えば、○○は～していた。」 「自分たちのグループは、～ができていない。だから、次回～を実施する。」 | ◇自分の意志で大和町の問題解決に向けて取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力してイベント準備に取り組もうとしている。【⑨主体性・協働性】（行動観察・R80） |

(5) 板書計画

本時のめあて：収集した情報をもとに、企画の実現に向けて必要なものを準備しよう。

※モニターに各グループの進捗状況を示す